

eラーニングとピア・レスポンスとを組み合わせた ブレンド型文章表現授業の実施

富永敦子・向後千春
(早稲田大学)

1. はじめに

ブレンド型授業は、異なるメディアを組み合わせた授業形態である。本実践では、eラーニングとピア・レスポンス (peer response, 以下ピア) とを組み合わせたブレンド型授業を行った。ピアとは、学習者同士の少人数グループで互いの文章について検討しあう方法のことである。eラーニングおよびピアのどのようなところが、文章作成能力の向上に役立つのかを受講生にアンケート調査した。

2. 授業

2009年度に私立大学で開講された文章表現授業を対象とした。履修登録者数は160人で、80人のクラスが2クラス設けられた。

受講生は、まずeラーニングによるオンデマンド講義を視聴した。オンデマンド講義の教材はeラーニング作成ソフトのStreamAuthorを使って教師が作成し、大学のLMSによって配信された。

オンデマンド講義は5章から構成された。1章は文章の基礎 (一文一義など)、2~4章はパラグラフ・ライティング、5章はレポートの構成であった。各章はほぼ同じ展開で進められた。最初にその章で学ぶこととゴールを示した。次に悪文例とその修正例について解説した。最後に、具体的な例題をもとに、文章の作成手順(1)与えられた資料から情報を抽出する、(2)情報を分類・グループ化する、(3)読み手と目的にあった情報を選ぶ、(4)説明順序を決める、(5)文章の型に当てはめて書く、(6)推敲し、文章を仕上げる、を解説した。

オンデマンド講義を視聴後、受講生は各章の練習問題を作成し、教室授業前日までに大学のLMSに提出した。練習問題は、オンデマンド講義で学んだ、文章の作成手順(1)~(6)に従って作成するように指示された。

教室授業は隔週で7回行われ、そのうちピアを行ったのは5回であった。1グループは6人とした。ピアは、「ピアの進め方」という資料を配付し、それに基づいて行った。「ピアの進め方」は、文章の作成手順と対応させた。受講生は、(1)~(6)の作業結果を持ち寄り、グループ内で作業結果を照らし合わせながら、話し合いを進めた。ピア終了後、受講生は自分の文章を修正しLMSに再提出した。

3. 方法

授業最終回に、eラーニングおよびピアに関する役立ち度についてアンケートを行った。設問は、(1)eラーニングの教材は、文章作成能力の向上に役立ったか、(2)eラーニング教材が役立った理由、または役立たなかった理由はなにか、(3)ピアは、文章作成能力の向上に役立ったか、(4)ピアが役立った理由、または役立たなかった理由はなにか、であった。(1)(3)については「まったく役立たなかった」~「とても役立った」の5件法で回答してもらった。(2)(4)は自由記述であった。

4. 結果と考察

4.1. 役立ち度の平均

履修登録者数のうち、すべてのピアに出席した53人(男性43人、女性10人)を分析対象とした。役立ち度の平均は、eラーニングが4.26($SD=0.65$)、ピアが4.11($SD=0.94$)であり、高い値を示した。

また、eラーニングの役立ち度とピアの役立ち度とは、有意な正の相関を示した($r = .413, p < .01$)。eラーニングが役立つと感じている受講生は、ピアも役立つと感じていることが示唆された。

4.2. 役立ち度の理由

役立ち度の理由に関する自由記述は、GTA（グラウンデッドセオリーアプローチ）の手法に準じて分析した。その結果、eラーニングの役立ち度は、6つのカテゴリー〈学習の仕方〉〈知識獲得〉〈技能向上〉〈教材の出来〉〈汎用性〉〈その他〉に分けられた。全コメント数に対する各カテゴリーのコメント数の比率を図1に示す。比率が高かったのは、〈学習の仕方〉(32.8%)、〈知識獲得〉(32.8%)であった。〈学習の仕方〉には、「わからないときは繰り返し見られた」「繰り返し何度も勉強できた」「自分のペースで学習できた」「空き時間に勉強できた」などが分類された。〈知識獲得〉には、「文章作成の基本が理解できた」「文章の作成手順がわかった」「相手にわかりやすく伝える書き方がわかった」などが分類された。

ピアの役立ち度は、7つのカテゴリー〈他者の文章・考え〉〈他者からの指摘〉〈討論〉〈知識獲得〉〈メンバーからの影響〉〈汎用性〉〈その他〉に分けられた(図1参照)。コメントの比率が高かったのは、〈他者の文章・考え〉(34.8%)、〈他者からの指摘〉(33.3%)であった。〈他者の文章・考え〉には、「いろいろな文章が見られた」「自分と違う意見、考えを聞くことができた」などが分類された。〈他者からの指摘〉には、「間違いや改善点を指摘してもらえた」「自分が気づかなかったミス指摘してもらえた」などが分類された。

4.3. eラーニングとピアとを組み合わせたときの効果

eラーニングの〈学習の仕方〉は、学習者の理解度や状況に合わせて、学習者自身が学習の仕方を変えられるという、eラーニング特有の長所を示している。この長所は、通常の教室授業では得られないものである。本実践では、練習問題を作成してからピアに出席しなければならなかったため、受講生はeラーニングの教材を繰り返し視聴したと推測される。ピアの〈メンバーからの影響〉には、「みんなに見せるために頑張って課題をやってきた」というコメントもあり、ピアが学習の動機づけになった可能性もある。教材を何度も視聴し学習時間が増えたことが、文章作成に関する〈知識獲得〉につながったと考えられる。

一方、ピアの〈他者の意見・文章〉はピア特有の長所である。受講生は他者の文章を見たり、他者の意見を聞くことにより、自分とは異なる見方を得ることができたと推測される。また、eラーニングで〈知識獲得〉できたことにより、間違いについて具体的な指摘ができたのではないかと推測される。

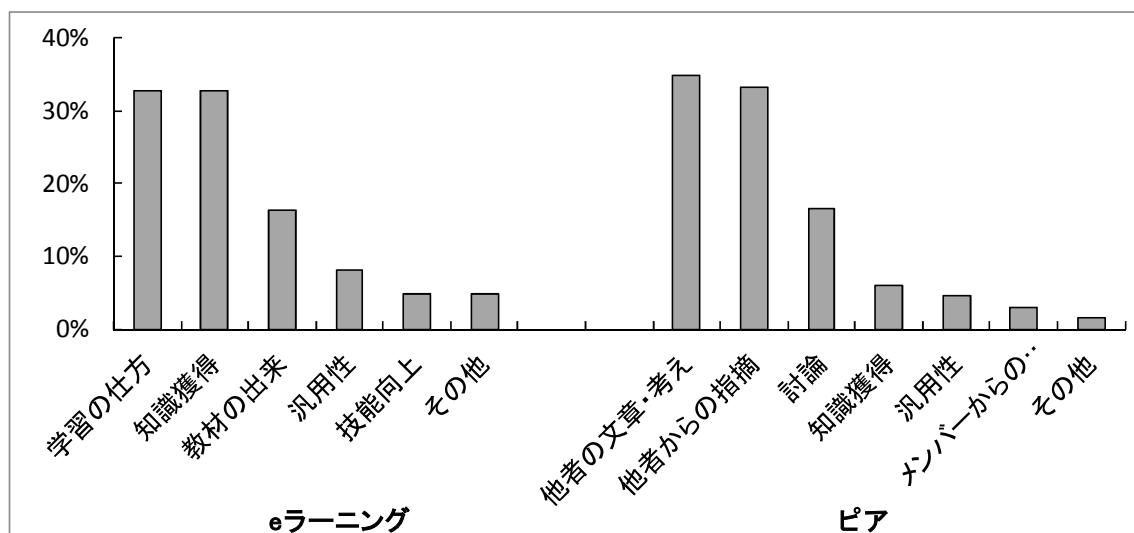


図1 全コメント数に対する各カテゴリーの比率